



ちひろ美術館・東京の開館20周年にあたる1997年に、いわさきちひろの心のふるさとである信州に誕生した安曇野ちひろ美術館。「絵は見なくてもいい美術館」がコンセプトのひとつである当館には、展示室に加え、作品の余韻を堪能できる絵本カフェや寝椅子の並ぶ渡り廊下などが併設され、周囲には北アルプ

スを望む36,500㎡の公園も広がっています。

本展では、当館コレクションよりいわさきちひろや世界の絵本画家の選りすぐりの作品を展示するほか、内藤廣による建築の魅力、美術館の歩みなど、さまざまな角度から“まるごと”ちひろ美術館を紹介します。

いわさきちひろ

●展示室1・2

ちひろ美術館は、絵本画家いわさきちひろの原画約9,400点をコレクションの核として誕生しました。本展では、「子どもを見つめて」「ちひろのあかちゃん」「自画像としての少女像」「四季を描いて」「ちひろとアンデルセン」「子どもたちに平和を」「ちひろと信州」という7つのテーマから作品の魅力を紹介します。

子どもを見つめて

約30年の画業のなかで、絵本をはじめ、子どもの本の世界で活躍したちひろ。特にちひろが生涯のテーマとしたのは、「子ども」でした。「私には、どんなにどろだらけの子どもでも、ボロをまとっている子どもでも、夢をもった美しい子どもに、みえてしまうのです」ということばからは、子どもを慈しむ心が天性のものだったことがうかがえます。さらに、母親になってからは、わが子や友だちの成長をくり返し描きとめました。「湯あがりのあかちゃん」(図1)には、大きな手に抱かれたあかちゃんが描かれています。あかちゃんの穏やかな表情と、体をそっ

と包む指先のやさしさから、その視線の先にあかちゃんを見守るあたかなまなざしを感じるすることができます。ちひろは、「私はさわって育てた」と語っていました。あかちゃんの甘い匂い、やわらかい肌……、母親の画家ならではの感覚が、五感を喚起させる作品を生み出しました。

自画像としての少女像

美しく無垢でありながら、繊細な心の動きを見せる、ちひろの描いた少女たちは、少女時代の豊かな感受性を持ち続けたちひろ自身の姿とも重なります。少女の内面を、絵と一人称の短いことばであらわした至光社の絵本について、ちひろは、「あれはみんな私の思い出というか、心のなかにあるものです」と語っています。シリーズの2作目『あかちゃんのくるひ』は、生まれたばかりの弟がお母さんと一緒に帰ってくる日の、少女の心の動きを追った物語です。主人公の名前は、ちひろの女学生までの呼び名と同じ「ちいちゃん」。まさに二人の妹を持つ長女ちひろの姿に重なります。あかちゃんが

家に到着する場面(図2)では、少女はとっさにダンボール箱に入ってしまう。口に手をやり、小さく体を丸めて座りながらも、まっすぐな瞳でこちらを見つめる少女の姿は、戸惑いや不安、好奇心など揺れ動く少女の繊細な心を豊かに伝えています。

子どもたちに平和を

ちひろは、青春時代に第二次世界大戦を体験し、多くの人命を奪い、夢や希望を打ち砕く戦争の現実を目の当たりにしていました。戦後、ちひろは画家となり、自らの体験をもとに、当時激化していたベトナム戦争への反戦の思いをこめて、『戦火のなかの子どもたち』(図3)を描きました。独立した一枚一枚の絵に短いことばを添えて構成した詩画集のような絵本のなかで、ちひろは傷ついた子どもたちの心の痛みを描き出しました。

愛情に包まれたあかちゃん、戦火にさらされた子どもたち……、すべての作品には、未来を生きる子どものしあわせと平和への願いが込められています。(長井瑠子)

世界の絵本画家

●展示室3・4

ちひろ美術館には33の国と地域、204人の画家による約26,750点(2014年12月現在)という世界最大級の絵本原画コレクションがあります。ちひろ美術館・東京開館当時の1977年は絵本を美術と考える人が少なく、絵本原画展を開催する美術館はありませんでした。すぐれた絵本原画を人類の文化財として後世に伝えていくという理念は各国の画家たちから共感と賛同を得て、作品数も次第に増えていきます。ちひろ作品とともに、国内外の絵本原画、絵本の歴史資料をいつでも見られるよう1997年にオープンしたのが安曇野ちひろ美術館です。

世界の絵本画家

1999年に来日したアメリカのエリック・カールは代表作『はらぺこあおむし』のイメージをちひろ美術館のために特別に作成寄贈し、2002年にマサチューセッツ州に開館したエリック・カール絵本美術館は当館の姉妹館です(図1、2)。

共に国際アンデルセン賞画家賞受賞者

であるクヴィエタ・パツオウスカーとドゥシャン・カーライは、チェコとスロバキア、隣り合う国をそれぞれ代表する画家です。パツオウスカーは原色のコントラストや大胆なタッチで見ると目をひき(図3)、カーライは色を重ねて奥深さを表現し、画面をあますことなく描き込んでいます(図4)。東欧とひとくりにできない二人の作品は、それぞれ一目で誰が描いたか分かる個性の強さを持ち合わせています。このような比較が可能なのも、コレクションに含まれる作品の数、地域的多様さ、そして質の高さによるものでしょう。

ちひろ美術館コレクションは、よく知られた欧米の絵本画家の作品のみならず、日本で翻訳出版のないアジア、アフリカ、中南米の作品も含んでいます。さまざまな国の良質な作品に接することが、異なる文化への理解にもつながると考えています。アルゼンチンのクラウディア・レニャッツィの『わたしの家』(図5)は

野間国際絵本原画コンクールグランプリ作品で、身近なものを丁寧にコラージュし画面を構成しています。

日本の絵本画家

ちひろ美術館コレクションには37名の日本の絵本画家の作品が含まれており、茂田井武、赤羽末吉の全遺作がご遺族の意志で収められているほか、長新太、瀬川康男のまとまった作品群もあります。

赤羽は日本人として初めて国際アンデルセン賞画家賞を受賞した画家です。『つるにようぼう』の表紙では、和紙の上の墨や顔料のぼかしなどによって、湿度の高い日本の風土をしっとりと描いています(図6)。瀬川康男の『ぼうし』の表紙では、装飾的に植物や動物が描かれ、独特の世界をあみ出しています(図7)。生涯、表現の可能性を突き詰めた二人の作品には時と国を超える力が感じられます。

本展ではコレクションのなかから厳選した約140点の作品を展示・紹介します。

(松方路子)



図1 湯あがりのあかちゃん 1971年



はなぐるま 1967年



図2 箱に入った少女
『あかちゃんのくるひ』より 1969年



図3 シクラメンの花のなかの子どもたち
『戦火のなかの子どもたち』より 1973年



王子を想う人魚姫 『にんぎょひめ』より 1967年

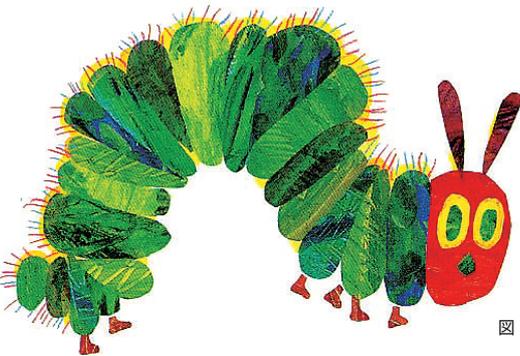


図1 エリック・カール (アメリカ)
『はらぺこあおむし』のイメージ 1999年

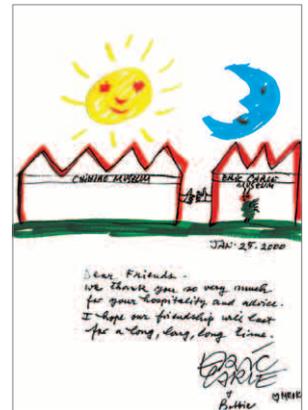


図2 ゲストブックよりエリック・カールの書き込み 2000年



図3 クヴィエタ・パツオウスカー (チェコ) 『紙の町のおはなし』より 1999年



図4 ドゥシャン・カーライ (スロヴァキア) 『船乗りシンドパッド』(未発表アニメーション)より 1989年



図5 クラウディア・レニャッツィ (アルゼンチン) 『わたしの家』より 2001年



図6 赤羽末吉『つるにようぼう』より 1979年



図7 瀬川康男『ぼうし』より 1987年

多目的ギャラリーでは、現代の日本を代表する建築家・内藤廣によるちひろ美術館の建築を、模型や資料を用いて紹介します。

安曇野ちひろ美術館の設計は、1993年夏に行われたプロポーザルコンペにより、内藤廣氏があたることになりました。いわさきちひろや絵本の世界にふさわしい、親しみやすい空間をどうすれば作り出すことができるかをテーマにいくつもの提案が重ねられ、試行錯誤が繰り返されました。北アルプスと田園風景を望むこの景観に馴染むよう、村営の安曇野ちひろ公園の設計も同時に進められ、環境と建物の一体化が計られました。そして1997年、外観の大きさ



がもっとも抑えられる切妻の連続屋根を用いて、安曇野の風景にとけこんだ美術館がオープンしました。

なかに入ると、信州産の唐松材の床と天井、地元の砂を練り込んだ珪藻土の壁が、大きなガラス窓から見える戸外の風景とあいまって、ゆったりとした空間をつくり出しています。建物の中心には中庭が据えられ、それを囲んで展示室や図書室、ミュージアムショップや絵本カフェなどのスペースが配置されました。当初、展示室は最小限の空間に抑えられていましたが、初年度から予想を上回る来館者を迎え、また収蔵作品数もより充実していくなかで、2001年には展示室と多目的ギャラリーを増築、さらに2009年には収蔵庫と資料研究室も増築されて、当初1,580㎡だ

った建物が、今は3,200㎡に広がっています。内藤氏は現在、2016年にオープンする「トットちゃんの広場」を含む安曇野ちひろ公園北側エリアの設計も手掛けていて、本展ではその構想も紹介します。

この安曇野ちひろ美術館の建物の空間を体感しながら、建築に込められた思いやさまざまな工夫をご覧ください。(上島史子)

内藤廣 Naito Hiroshi 1950—

建築家。早稲田大学理工学部建築学科卒業。同大学院修士課程修了後、国内外の設計事務所を経て、1981年、内藤廣建築設計事務所設立。海の博物館（92年竣工）で日本建築学会賞など受賞。牧野富太郎記念館（99年竣工）で村野藤吾賞など受賞。2001年より東京大学教授・副学長を歴任。2011年より東京大学名誉教授。2005年よりちひろ美術館理事、2013年よりちひろ美術館評議員。安曇野ちひろ美術館、および新・東京館の設計を手がけた。

●活動報告

2014年10月11日(土)～12日(日)

トットちゃんの電車の教室がやってくる！特別お泊り会

2016年夏、安曇野ちひろ公園（松川村営）の北側エリアが拡充され、そのなかに整備されることが決まった「トットちゃんの広場」。トットちゃんこと黒柳徹子（当館館長）が小学校時代に通ったトモエ学園で、使用されていた電車の教室を再現する計画が進められています。みんなで学校にお泊りをして、夜中に移動してくる電車を迎えたトットちゃんの物語のように、松川村に電車が到着するのを迎えるお泊り会を開催しました（参加者約70名）。

10月11日 17:00

電車移設の前日に美術館で行ったオリエンテーションでは、電車を無償で譲ってくださった長野電鉄の笠原甲一社長と運転課の黒岩勉さんにお話を伺いました。大正15年製のデハニ201と、昭和2年製のモハ604という古い貴重な車輦。マルーン色(栗色)のレトロな外観で、黒柳も実際に下見をして、「当時の電車の教室とそっくり！」と気に入ったものです。さて、長野市の旧信濃川田駅で保管されていたこの2輦の電車。松川村まで約70kmもの距離をどのようにしてやってきたのでしょうか？

10月11日 21:00

参加者は夕食をとり、お隣のすずむし荘の温泉に入って大広間に集合。電車が長野市を出発するころ、就寝前にみんなで電車の出発式をしました。電車の到着はいよいよ翌早朝です。



5、4、3、2、1……出発！

10月12日 5:00

参加者たちは眠い目をこすりながら、寒く薄暗いなかで電車を待ちました。空がわずかに明けはじめたころ、大きな大きなトレーラーに載った1輦目の電車が姿をあらわしました。「うおー！」「きたきた！」「大きいー！」お泊り会の参加者に加え、かけつけた松川村民のみなさんからも次々と歓声があがります。



大きなトレーラーに載った電車が到着

電車は、車体と車輪を外してそれぞれ移動してきたあと、先に設置された車輪のうえに、クレーンで吊り上げられた車体が降ろされました。

10月12日 6:00

電車の到着を見届けたあとは、美術館へ戻って歓迎セレモニーです。無事の到着を祝い、松川村特産のりんごジュースを手に、平林明人松川村長のかけ声で乾杯！「トットちゃんの広場」完成に向け第一歩を踏み出した記念として、テープカットも行いました。そして、お待ちかねの朝食。トットちゃんのお話に出てくる「海のもの」と山のものが入ったおにぎりと豚汁はすずむし荘の手づくりです。おいしくいただき、心も体もあたたまりました。

「また来るね！」と笑顔で手を振る子、電車の設置作業を最後まで見つめていたお父さん。多くの方が長野県内だけでなく、さまざまなところから（遠くは高知県からも！）、トットちゃんの電車を迎えるためにかけつけてくれました。笑顔での別れに、電車が実際に教室として使われる日が一層待ち遠しくなりました。

新しい公園のオープンを翌年に控えた2015年。安曇野ちひろ美術館では、トットちゃんのエピソードにちなんだイベントを毎月開催します（裏面インフォメーション欄参照）。楽しいイベントに参加して、「トットちゃんの広場」の完成を見守っていたければ幸いです。（入口あゆみ）

イベント詳細は、トットちゃんの広場Facebookページでご案内します。
<https://www.facebook.com/chihiro.totto>

ちひろを 訪ねる旅⑤⑥

東京都電

自動車の急速な普及で1972年（昭和47）に全線が廃線となるまで、東京都内、かつて省線と呼ばれた今日のJR山手線内の主要な足は都電、チンチン電車でした。

「汽笛一声、新橋を…」と唱歌に歌われた日本初の鉄道が、新橋一横浜間に開通したのが1872年（明治5）。その後、民間の鉄道が徐々に施設されていきますが、都電の前身、東京電気鉄道が品川の八つ山と新橋を結んで開業したのは、1903年（明治36）のこと。以後、次々に路線を増やし、また、異なる鉄道会社が合併してピークを迎える頃には、41系統の路線があり、南は品川駅や五反田駅、北は赤羽、志村橋まで。西は荻窪か

ら、東は西荒川や葛西橋まで、山の手線の外まで大きく広がって、都民の重要な足となりました。

敗戦の翌年1946年5月に上京したいわさきちひろは、1950年に松本善明と結婚、52年に練馬区上井草に新居を構えるまでのおよそ6年間を、神田に暮らしましたが、最初に住んだ叔母、中村泰の家も、その後、移ったブリキ屋2階の下宿も、最寄りには都電の専修大学前の停留所でした。現在も、靖国通りと専大通りの交差点に、その名前は残っています。この専修大学前は、都電10系統で、渋谷ー明治神宮ー青山ー赤坂見附ー九段上ー九段下と来て、専修大学前に下り、神保町ー駿河台下ー小川町ー須田

町に至る路線。しかも、九段下から小川町に掛けては、高田馬場と茅場町を結ぶ15系統が並走しており、便利のよいところだったと思われる。上京直後に通った芝新橋の共産党宣伝芸術学校や、その後、画家として本格的な仕事をする事となる教育紙芝居研究所へも、小川町で37系統の三田行きに乗ることができたでしょう。飯田橋駅の南にあった人民新聞への出勤には、15系統ですぐでした。

結婚前の善明は、駿河台の叔父の家に下宿しており、その間はわずかに二駅。けれど、その時ばかりは都電は不要。二人は話をしながら時間を忘れて神田の通りを送り送られしていました。（竹迫祐子）

ひとこと ふたこと みこと

9月14日（日）

ちひろの絵が大好きで、大学生の時、財布の中に5千円しかなかったのに5千円の画集を購入したことがありました。35年前のことです。今日は大学時代の仲間と来たので、当時は思い出しながら楽しく見せていただきました。（S.T）

9月28日（日）

小さな頃から、ちひろさんの絵とそのお顔の写真にひかれてきました。原画や習作は、その素材が生かされ、ちひろさんが色や線に込めた命を思うようで、ひたすら感激しています。（Y.O）

10月1日（水）

何度来ても素敵です。入った時からスキの灯り、木の飾り。美術館とそのまわりは、どこをとっても、どの人にも公平で優しく人間

的芸術性にあふれています。しぼんだ物が自然にスーッと息を吸い込んで、ゆったり、ふんわり自由に生きかえるような気がします。（Y.H）

11月1日（土）

いつも私は母とケンカをしてしまうのですが、『戦火のなかの子どもたち』を読んで、母と父がいないうちがかわいそうだと思いました。母とケンカができて良い事なんだと考えました。これからも、母と父と仲よくやっていきたい！

11月23日（日）

ちひろの女の子の絵を見ると娘の小さい時の絵だと思えます。男の子の絵を見ると息子の小さい時の絵だと思えます。そんなはずなのに、いつもそう思えるのは不思議な事です。自分の子どもたちの

子どもたちにも、戦火のなかで生きることがないように願わずにはいられません。ちひろの子ども達の絵の“子どもらしさ”の普遍性は平和に通じていると思うから、よけいにそう祈るのです。（M.N）

11月23日（日）

魔法の世界を遊んで旅しているみたいです。重さと力、スズキコージさんの絵に、何かがひっぱり出されてくるような気がしました。（やす）

11月28日（金）

家に帰ったら、段ボールをもみくちゃにして絵を描いてみたい！やったことないけどやってみたい！できる、できないじゃなくて、なんかきつと楽しい。興奮して笑いながら遊んでみよう。スズキコージさん大好きです。（A.N）



美術館 日記

9月20日（土）☀

スズキコージさんのワークショップ「ズキンDEパレード」開催。まずは段ボールや古着などを、それぞれに、チョキチョキベタベタ、ミシンでダダダ！個性あふれるイカす服や王冠が次々と完成。最後はコージさんと楽隊を先頭に、完成した服と冠を身に付けてパレード。紙吹雪の舞う中、子どもも大人もコージズキンの魔法にかかったようなひとときを過ごした。



10月23日（木）☀

日ごろ忙しい松川村の女性たちが

らの、美術館に行く“きっかけ”が欲しい、という要望に応じて、「松川村お嫁さんデー」を行う。グループで来てくださった方たちは、プレゼントのドリンクチケットを利用して、カフェでの楽しい時間を過ごされていた。

11月1日（土）☂

「安曇野スタイル2014 平和としあわせを願うアジアの手仕事」にあわせて「アジアの言葉で楽しむトットちゃん」を開催、タイ語とスリランカ語での「トットちゃん」の読み聞かせを行なった。タイでもトットちゃんは大人気、と流暢な日本語で話してくれた交換留学生ポントンさんは、自身も子どもの頃に読んでいたそう。スリランカのダクシニさんは、今回のために「絵本 窓ぎわのトットちゃん」のエピソードを自らスリランカ語

に訳してくれた。リズムカルな言葉は美しい歌のようで、参加者もじっくりと聞き入っていた。



12月13日（土）☁

銀座にオープンした長野県のアンテナショップ「銀座 NAGANO」で安曇野アートライン展を開催。会場でちひろの水彩技法WSを行う。信州好きな方の参加も多く、「長野は良く遊びに行くのよ！」「夫の実家が松本だね。」など、絵筆片手に会話がはずんだ。



●次回展示予定 2015年5月15日(金)～7月14日(火)

戦後70年特別企画

〈展示室1・2〉

I ちひろ・非戦の誓い



第二次世界大戦終結から70年。ちひろが手がけた戦争をテーマにした絵本のほか、いきいきとした子どもたちの姿を描いた作品を展示し、「世界中のこどもみんなに 平和としあわせを」と願い続けたちひろの思いに迫ります。

母の日 1972年

〈展示室4〉II 戦争を描いた日本の絵本展



長谷川義史『へいわってすてきだね』(ブロンズ新社)より 2014年(個人蔵)

戦争を知らない世代が増えている今の日本。本展では、近年、日本で出版された絵本のなかから、戦争をテーマにした約10冊の絵本原画や資料を展示し、戦争と平和について考えます。

〈展示室3〉III ちひろ美術館コレクション
世界の絵本画家から未来を生きる子どもたちへ

戦争の世紀といわれた20世紀を経て、今なお、世界各地では、紛争や環境破壊により多くの子どもたちが傷つき、命を奪われています。本展では、作品とともに、子どもの豊かな未来を願う絵本画家たちのメッセージを紹介します。

〈展示室5〉 絵本の歴史

安曇野ちひろ美術館 イベント予定 各イベントの予約・お問い合わせは、安曇野ちひろ美術館へ。

詳細・最新情報はホームページからもご覧いただけます。http://www.chihiro.jp/ TEL. 0261-62-0772 FAX 0261-62-0774

f https://www.facebook.com/chihiro.azumino

●2016夏トットちゃんの広場オープン・イベント

2015年は毎月『窓ぎわのトットちゃん』のエピソードにちなんだイベントを開催します。イベント参加者限定のスタンプラリーも行います。



○4月29日(水・祝) 飯ごう炊さんの会
トットちゃんを楽しみにしていた「等々力深谷飯ごう炊さん」。親子でご参加ください。

参加費：ひとり500円

場 所：馬羅尾高原キャンプ場(予定)

定 員：親子10組



トットちゃんの電車の教室

○5月23日(土) 電車の教室づくりワークショップ

地元の池田工業高校の先生や生徒とともに、教室の椅子や机をつくります。

参加費：ひとり500円

○6月6日(土) 松川村の畑の先生と農作業体験

農業が盛んな松川村には「畑の先生」がたくさんいます。楽しく農作業を教えてください。

参加費：ひとり500円

○7月11日(土) トットちゃんのリトミック体操

○8月29日(土) トットちゃんの肝だめし

○9月22日(火・祝) 鉄道ファンあつまれ! 電車特別見学会II

○10月25日(日) 畑の先生・収穫祭

○11月8日(日) 自然で遊ぼう! ワークショップ

●おはなしの会

毎月第2・4土曜日

11:00~

参加自由、入館料のみ

●ギャラリートーク

毎月第2・4土曜日

参加自由、入館料のみ

14:00~ちひろ展

14:30~世界の絵本画家展または企画展

●展示関連イベント 建築家・内藤廣が語るちひろ美術館

ちひろ美術館(東京・安曇野)を設計した内藤廣による講演会です。「居心地のいい空間」となるように工夫された美術館建築に込めた思いを語ります。

○日 時：4月18日(土) 15:00~16:30

○料 金：無料(入館料別)

○要事前予約

内藤廣



●展示関連イベント まるごとちひろ美術館ワークショップ

いわさきちひろと世界の絵本画家の技法を体験します。

○日 時：4月19日(日) 10:00~14:00~

○料 金：300円(入館料別)

○要事前予約

●開館記念日

この日ご来館の先着100名に、非売品ポストカードをプレゼントします。

○日 時：4月19日(日)

いわさきちひろ
りんごと天使 1964年



●近隣市町村入館無料デー

日ごろの感謝を込めて、美術館近くの市町村にお住まいのみみなさんに向けて、入館無料でお楽しみいただけるご優待日を設けました。美術館へ何度もお越しくださっている方も、初めての方も、お誘いあわせのうえ、ぜひご来館ください。(当日は、ご住所を確認できるものをお持ちください。)

3月8日(日) 松川村民感謝デー

3月22日(日) 安曇野市民入館無料デー

4月12日(日) 池田町民入館無料デー

5月10日(日) 大町市民入館無料デー

6月14日(日) 松本市民入館無料デー

9月13日(日) 白馬・小谷村民入館無料デー



CONTENTS 〈展示紹介〉-絵はみななくてもいい美術館- まるごとちひろ美術館…②③④

〈活動報告〉2014年10月11日(土)~12日(日)トットちゃんの電車の教室がやってくる! 特別お泊り会…④

ちひろを訪ねる旅56/ひとことふたことみこと/美術館日記…⑤

美術館だより No.81 発行2015年2月13日

安曇野ちひろ美術館